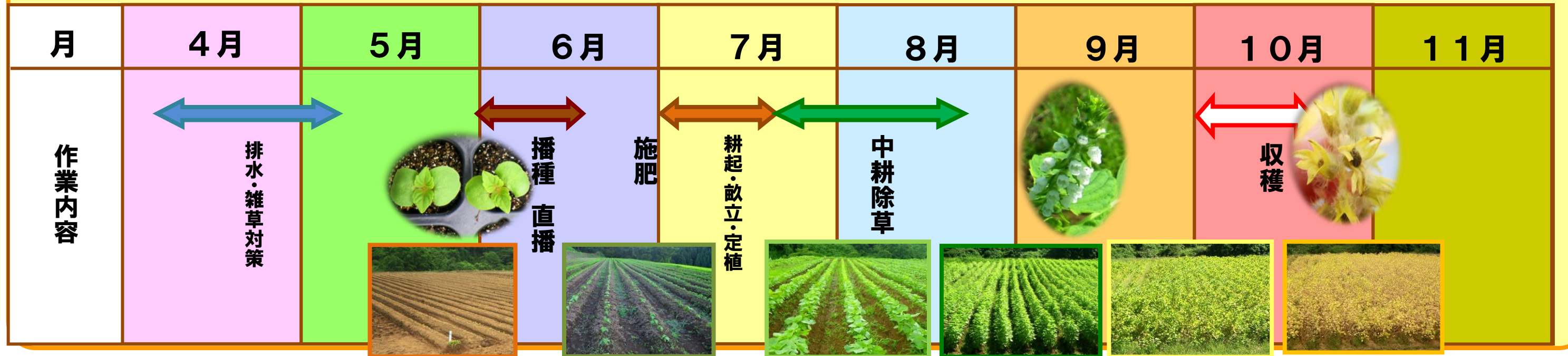


# えごまの栽培暦 (JA あおば)



## えごまの特徴

・シソと同じ種類の作物でエゴマ油には必須脂肪酸のα-リノレン酸が、種や葉にはカルシウムや鉄が含まれている。

## 栽培のポイント

- ・生育初期は雑草との競合となるので雑草対策が必要となる。
- ・水田利用では排水不良により生育障害や機械による中耕作業に支障をきたすため十分な排水対策を行う。



**種子** 富山県大沢野在来種・八尾在来種・福島県田村産・など

## 播種・育苗

- ・育苗ハウスを利用し日中は十分換気し夜間は保温する。
- ・適期播種: 5月下旬から6月上旬頃、種子量約 5,000 粒/10a (早すぎると茎葉の過繁茂、遅すぎると茎葉が大きくなる前に結実し減収する)
- ・コーティング種子を播種機で 128 穴のセルトレイに播種する。
- ・トレイの底から根が伸びるのを防ぐため、置床には垂木等を並べトレイが地面から浮くように設置する。
- ・播種後は散水ノズルで丁寧にムラなく灌水し、以降も乾燥しないよう灌水する。
- ・発芽まで 5~6 日、不織布をかけて乾燥を防ぐ。播種 1 週間後の発芽率が低いようなら再播種する。
- ・(発芽揃いから 10 日後にやさい燐加安 S540 の 500 倍液を 1 トレイあたり 500ml 散布する。)
- ・本葉 2~3 節程度で定植する。

## 圃場準備

- ・日当たり、排水条件のよい圃場を選定し、雑草が多い場合は、前年から除草剤を散布するなど雑草種子を増やさないようにしておく。
- ・早めに額縁排水溝を設置しておく。
- ・事前に施肥を行い、耕起・畝立て・定植は 1 日で行なう。
- ・草丈が長くなると倒伏の恐れがあるので、草丈が 150cm 以内になるよう、地力に応じて施肥量を調節する。
- ・培土するため、畝幅は 80cm 以上とし、あまり高畝にならないようにする。

## 10a 当たり施肥量

肥料名	粒状苦土石灰	発酵けいふん
総量	100kg	80~100 kg

## 直播

- ・直播期間 播種と同様 5 月下旬から 6 月上旬とする。(マルチ貼り直播機を使用すると効率が良い)。

## 定植

- ・定植時期 6 月下旬~7 月 15 日頃まで
- ・株間 20cm、1 条、1 本仕立となるよう、半自動移植機で移植する。

## 中耕・除草

- ・定植から 10~14 日後に中耕を行い、雑草の繁茂を抑える。
- ・その後、10~14 日間隔で 2~3 回程度の中耕除草を行なう。(えごまが十分に生育する 8 月中旬まで)

## 発蕾と成熟

- ・8 月下旬~9 月上旬頃に発蕾が確認され、10 月中旬には成熟期を迎える。

## 収穫

- ・収穫期が遅れると、種がこぼれて減収となるので、手刈りでは成熟期の 3~7 日前(「えごま成熟早見表」の III~IV 期)
- ・コンバイン収穫では完全落葉期から 1 週間以内(V~VI 期)に収穫する。
- ・カビ防止のため収穫後は直ちに、調製作業を行う。

## 使用できる農薬について

※栽培期間中、化学肥料、農薬を使用しない。

